

八戸

性被害から身を守ろう

八戸学院大学の別科助産専攻の学生4人が22日、八戸市の八戸学院聖アンナ幼稚園で園児と保護者を対象に「性の健康教室」を開いた。学生たちはイラストや寸劇を交えて胸などの「プライベートパーツ」の大切さを園児らに説明するとともに、不審者に遭った時に取るべき行動を実際に体験してもらい、性被害から身を守



不審者にふんした学生(左)に話しかけられ、「嫌だ!」と大声で叫ぶ練習をする園児たち

八学大助産専攻生 健康教室 園児に呼びかけ

守る方法を教えた。

同教室は、助産師資格取得を目指す同専攻の学生が「健康教育技法」を学ぶ講義の一環。2年前から同系列の幼稚園や高校などで実施している。

聖アンナ幼稚園での教室には年長児14人と保護者8人が参加した。学生たちは水着姿の男児と女児のイラストを示し、プライベートパーツについて「水着で隠れている部分とお口が大事なところ。見るのも触るのも自分だけで、お友達の大事なところも勝手に触らないで」と強調した。寸劇では、不審者に遭った際は「嫌だ!」と大声で叫んで「逃げる」、その後先生や家族ら信頼できる大人に「話す」という三つの行動を取るよう呼びかけ、園児たちに「嫌だ!」と大声を出す練習をしてもらった。

同専攻の松倉紗蘭さんは「参加型で楽しんでもらえるよう工夫した。子どもたちが自分の体を大切にし、友達に嫌な思いをさせない関わり方を学んでほしかった」と話した。

(千葉真由美)